



早稲田大学 立川稲門会 会報

50周年記念 29

<http://tachikawatomon.com>

2024年12月20日

第29号

発行 立川稲門会

発行者 小林和雄

事務局 立川市富士見町

2-36-43

立川稲門会創立50周年記念講演会



創立50周年記念祝賀会第1部記念講演会

「戦争はなぜ起こるのか」

早稲田大学卒 駒澤大学教授

加藤 聖文氏

立川で市民向けの講座（たちかわ市民交流大学）を、10年余やらせていただきました。日本の近現代史を、その時々、市民の要求にこたえる毎回のテーマの中で戦争が必ず入りまし、現在の情勢からも重大なテーマで、「戦争はなぜ起こるのか」近代史から読み解いてみたいと思います。

1 「近代」とは？ 国民国家とは？ 「日本人」とは？

○国民国家の元祖はフランスであり、日本の明治維新も国民国家の試み。国民国家は、身分制を打破して社会的障壁を取り除いた結果、社会の標準化が進み、それが近代資本主義の発達を促し、結果として国力が増した⇒周辺国家も国民国家を急いだ（乗り遅れた国は没落）。

2 国民国家に不可欠な軍隊

○明治以降、学校教育と軍隊を通して、日本人意識が醸成される。その一つの頂点が日清戦争（1937（昭和12）年）。国の様々な施策を通して、戦争は日常生活に溶け込んでいった。日本の軍隊は諸外国と比べても階級差のない「平等」社会。軍隊に入ることが社会的にもメリットをもたらす。1873（明治6）年に徴兵令公布。1889（明治22）年に国民皆兵となる。1925（大正14）年頃は、男性のほとんどが軍隊と何らかの関わりを持っていた。

3 満州事変と国民の熱狂

○満州事変（1931（昭和6）年）は日本にとって戦争の時代への転機となった。関東軍が暴走して満州を占領したというだけでなく、国民が軍部を熱狂的に支持する契機となった戦争として重要。背景として、満州事変前夜に起きた世界恐慌の影響で日本の農村は危機的状況に陥ったが、当時の政府（政党）は、有効な対策を取れず、国民が政党政治に見切りを付け始めた頃に起きたのが満州事変であった。国土が広がり、景気も良くなり（一時的だが）、文化人もマスコミも熱狂した。女性も戦争に積極的協力（国防婦人会、草の根的に庶民レベルの主婦層がかっぽう着姿で活動）した。国民は軍部の行動を痛みの伴わない戦争として、熱狂的に支持するようになる。

まとめ

- ★国民国家は常に戦争と隣り合わせにある。国民国家として未熟であればあるほど国民意識を高め連帯感を維持させるために戦争は手っ取り早い手段となる。
- ★ただし、戦争は特定の為政者による野心で起こるものではない。むしろナショナリズムに目覚めた国民が戦争を望むことも多い。
- ★国民国家の宿痾（長く治らない病気）である以上、戦争の悲惨さだけを教えても戦争は防げない。平和の尊さを学ぶこととは違った「戦争」そのものを考える場（戦争とはどうして起こるのか等）が必要。
- ★そのためには戦争にまつわる記録や資料が不可欠。それらの散逸を防ぎ、公共機関で一元的に保管・公開する施設（アーカイブズ）が必要。

最後に、質問に答えられたこと。

戦争は国民性が表れる。アメリカ人は、二度と失敗しない。必ず戦術も戦力も向上する。日本人は、失敗を認めない。検証の材料もなく、検証をしないで同じ失敗を繰り返す。忠臣蔵のような滅びの美学で。できないことも、損なことも、現実を受け入れられず感情論で切れてしまう。アメリカも中国も合理性がある。満州事変から第二次世界大戦までの日本国民の熱狂ぶりが恐ろしい。

文責 廣瀬俊夫 1964(昭和39)年 文

創立50周年記念祝賀会 第2部懇親会

伊藤裕康 1980(S55)年 教育

10月6日(日)ホテルエミシア東京立川で、立川稲門会第51回定期総会に続き、創立50周年記念祝賀会第1部記念講演会・第2部懇親会を行いました。記念祝賀会には、来賓として、早稲田



大学常任理事・校友会代表幹事萬代晃様、東京三多摩地域担当部長・情報企画部事務部長高橋智弘様、東京

三多摩支部支部長尾ノ井光昭様をお迎えしました。

さらに、通常の年とは異なり、東京三多摩支部25の校友会すべてにお声を掛け、大多数の校友会の方が来賓としてご出席くださり、立川三田会から会長と副会長兼幹事長が、中央大学学会立川支部から支部長がご出席で、92名の方が集いました。

懇親会は、小林章子副会長と森山善弘事務局長の名コンビによる楽しく明るい司会で、終始和やかでした。会長挨拶、ご来賓挨拶、ご来賓紹介に続き、志村順子元会長の挨拶乾杯、創立時からの会員紹介・会員挨拶では、本会報にも原稿(3頁参照)を寄せていただいた中村克久さん・天野博一さんが登場されました。

志村元会長を加え、NHKの番組「プロジェクトX」風

の「プロジェクトT」が、中島みゆきの「地上の星」にのって始まり。お元気なお二人のお姿とお話は、また原稿とは違った感動がありました。小林会長の挨拶にあったように、先輩方の設立さらに継続の努力があったからこそ、50周年を迎えられたことに感謝しました。

また、今年は、立川稲門会会員に限って、初めて学部ごとに分けた円卓を囲んでの会としました。私は教育学部の円卓に参加しましたが、70歳を過ぎてなお数学の教員一筋を続け、六大学野球観戦も楽しんで充実した人生を送られている先輩とお話できたのは、非常によかったです。

応援部のパフォーマンスでは、コンバットマーチ、早稲田の栄光がやっぱりいいですね。校歌をみんなで手を振り上



げて歌うのは最高で、最後のエールのフレーフレー早稲田・慶応・中央・立川、みんな仲良くですが、特に最後の立川が心に沁みました。

最後に佐竹50周年実行委員長の閉会挨拶で、これまでの長いご活躍が素晴らしいと思い、引き続き、「入ってよかった立川稲門会」と思っていただけのような土台になりたいと思いました。

立川稲門会第51回定期総会

立川稲門会会員のみの参加で、会長挨拶に続き、議題1：2023年度活動報告、議題2：2023年度会計報告、議題3：2023年度監査報告、議題4：2024年度事業計画(案)、議題5：2024年度予算(案)が全員賛成で、可決されました。

その後すぐに記念撮影を行いました(3頁参照)。

祝創立50周年

設備設計一級建築士事務所 S47 理工
三井企画株式会社
建築整備士 一級建築士 電気主任技術者
代表取締役 小林和雄
〒190-0022 東京都立川市錦町4-5-15
TEL 042-526-3245
FAX 042-522-2818

社会福祉法人 恵比寿会 H1 社会
理事長 森山善弘
東京都立川市富士見町2-36-43
TEL 042-523-7601代
https://www.fellow-homes.or.jp/e-mail

岡野法律事務所 H8 法
弁護士 岡野和弘
〒190-0012 東京都立川市曙町2-34-13
オリンピック第3ビル701号室
TEL 042-548-4805 FAX 042-548-4806
E-mail:okano-law-office@wish.ocn.ne.jp

50th 立川稲門会 半世紀は通過点 そして未来へ



- ホーム
- 新着情報
- イベント
- 役員会・委員会活動
- 同好会一覧
- 近隣稲門会・早稲田大学校友会
- 予定表
- 会長挨拶
- お問い合わせ
- 入会申込
- 会報アーカイブ
- リンク
- RSS (更新通知)
- エッセイ



ようこそ立川稲門会へ



立川稲門会HP



多摩川から眺める富士山

小林和雄画



砂川の大ケヤキ

50周年記念は、a b c d 頁として取り外して見ることができます。

西暦	和暦	立川稲門会	大学、立川市、社会のようす
1974	S49. 12.1	立川稲門会設立発起人会	
1975	S50. 1.26	第1回総会（立川市市民会館）出席者来賓含め49名 村井資長総長来席、猿渡栄一会長	立川市在住校数156名
1983	S58. 7.26 10.23	創立100周年記念コンサート・三多摩稲門連合会 （立川市市民会館 大ホール） 第10回総会（立川市市民会館）	東京ディズニーランド開園 国営昭和記念公園開園
1993	H5. 10.2	第20回総会（立川市市民会館） 吉村作治助教講演 地域公開講座	米大統領ビル・クリントン来校
2003	H15. 11.8	第30回総会（立川グランドホテル） 浅井慎平氏対談（アイムホール）地域公開講座	六本木ヒルズ開業
2013	H25. 10.26	第40回総会（立川グランドホテル）	2020年夏季五輪、東京開催決定



立川稲門会 会報 創刊号



立川稲門会40回総会記念会報



初代 猿渡 栄 一会長
(S50年～52年)



2代 砂川 昌平 会長
(S52年～H7年)



3代 鈴木 健 一会長
(H7年～11年)



4代 榎本 信行 会長
(H11年～13年)



1975 第1回総会 設立

4年～2024年

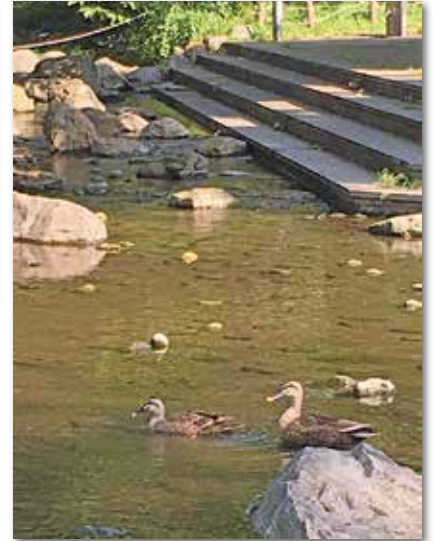
西暦	和暦	立川稲門会	大学、立川市、社会のようす
2014	H26. 10.25	第41回総会（立川グランドホテル）	ノーベル平和賞にマララさん
2015	H27. 10.17	第42回総会（立川グランドホテル）	ラグビーワールドカップで歴史的勝利
2016	H28. 10.22	第43回総会（立川グランドホテル）	米大統領オバマ歴史的な広島訪問
2017	H29. 10.14	第44回総会（立川グランドホテル）	桐生祥秀日本選手初100メートル9秒台
2018	H30. 10.13	第45回総会（立川グランドホテル）	早稲田大学歴史館開館



8代 小林 和雄会長
(H27年～)



第41回 総会



根川緑道

2018



第44回 総会

2017

2016

2015

2014



Bリーグが立川へ 2017年



第45回 総会懇親会



稲門祭 模擬店 2018年

西暦	和暦	立川稲門会	大学、立川市、社会のようす
2019	R1. 10.12	第46回総会（立川グランドホテル）	台風19号のため役員のみで総会実施
2020	R2. 10.10	第47回総会（立川市市民会館）	R2.1新型コロナウイルス国内初感染確認 2020年～2022年コロナ禍のため飲食なし
2021	R3. 10.16	第48回総会（立川市市民会館）	東京オリンピック・パラリンピック
2022	R4. 9.4 10.15	2022年東京三多摩支部大会主幹 （ホテル日航立川東京） 田中愛治早稲田大学総長講演 第49回総会（立川市市民会館）	大谷翔平104年ぶり2桁勝利2桁ホームラン R4.2ロシアによるウクライナ侵略の開始
2023	R5. 10.14	第50回総会（立川市市民会館）	R5.5新型コロナウイルス感染症5類移行
2024	R6. 10.6	第51回総会（ホテルエミシア東京立川） 50周年記念祝賀会（記念講演会・懇親会）	20年ぶり新紙幣発行 大谷翔平前人未到の50-50達成



立川稲門会50年の回想

中村 克久 1961(昭和36)年 政経

1974年当時校友会幹事だった柳沢一郎氏が砂川に転入され、熱意をもって市内の諸先輩に早稲田の集まりを作るよう説得したのが始まりだった。柳沢氏から私の義兄のスーパーいなげや社長の猿渡栄一に相談があり、その義兄から当時立川青年会議所理事長だった私に市内の有力校友に根回しするようお鉢が回ってきたのだった。砂川昌平氏など主だった方の協力を得、同年12月発起人会、翌年1月には立川稲門会第一回総会を当時の村井総長を始め学校関係者や国分寺稲門会、市内の校友など49名の方々の出席をいただき開催できた。役員も多く

は50歳台の若さだった。この総会で私は司会を務めたが36歳だった。皆、若かったと思う。

談話サロンや散策の会の立ち上げも良い思い出である。散策の会は当初市内の神社仏閣の歴史探訪を鈴木茂先輩の解説で始めたのが始まりで、その中で自然に発足したのが談話サロンである。散策の会では羽田沖から多摩川源流までの遡上や旧甲州街道220キロ18日間の散策、ゴルフ愛好会のグアムや台湾遠征など当時の若さを彷彿させるものがある。50年の伝統の上に更に立川稲門会の新しい歴史を積み重ねて欲しい。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 2024年 年4回のイベント ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



新年会 スペイン料理テンプラネージョ



観桜会 昭和記念公園バーベキュー広場



納涼会 シンガポールホーカーズ



第51回定期総会

立川稲門会に感謝

天野 博一 1969(昭和44)年 政経

当時私は家業の生コン製造、砂利採取業の会社が倒産し、会社更生法の基での経営再建中で毎日が大変忙しく過ごしておりました。そこに突然、父親同士が知己で元会長の鈴木健一さんから電話があり、立川稲門会の設立に加わってほしいとのことで、若年ながら参加させてもらうことになりました。会社のこともあり、多忙の中でのことで記憶がはっきりしませんが、砂川昌平元会長の広大な敷地の一部の竹林で毎春、竹カップを作り、

焚火を囲んで爛酒を飲みながら、バーベキューをしたことは、楽しい思い出です。家族で参加したので二人の娘が最後に皆でこぶしを振り上げあの歌を歌うのを恥ずかしがっていたのが印象に残っております。一時期、鈴木健一さんが会に参加しなくなったので、私も休んでおりましたが、親族の志村順子が会長になったことで再び参加するようになりました。この会を通じて知り合いになり幾人かの生涯の友人を得たことに感謝しております。

同好会だより

散策の会

立川市内の名所、旧跡を訪ねて、のんびりと歩こうと始まった会。早いもので、20年近くになりました。現在は、市内だけではなく、近郊の里山、公園、名所などを歩いています。当初は、10kmくらいがめどでしたが、今は、4~6km程度です。毎月(除く7月、8月・夏休み)第3水曜日に実施しています。会員にはメールで案内をしていますが、同じ内容を、立川稲門会ホームページにも送信しています。飛び入り参加も歓迎です。入会はもっと歓迎です。

ゴルフ愛好会

今までは年4回くらいの頻度でコンペ開催しておりましたが、会員の年齢的・体力的な理由で参加者が減ってきております。今後は、コンペの頻度を少なくするなど会の在り方自体を変えなければならない時期にさしかかっているかもしれません。他の大学や他の近隣稲門会との合同開催を視野に入れていきたいと思っております。

早稲田ラグビーを愛する会

この会では、毎年2回、11月23日(祝)の早慶戦、12月第一日曜日の早明戦観戦応援を行っています。今年は、100回目の早明戦で会員家族も一緒に楽しい観戦・応援となりました。一人でも多くの方との観戦・応援を望んでいます。立川稲門会創立50周年記念から新たな出発に向かう今、是非一緒に観戦・応援しませんか。入会大歓迎です!!

代表世話人 伊藤裕康 携帯090-5500-7304
e-mail: taigar269719@yahoo.co.jp

連絡先が明記されていない同好会に関する問い合わせは、立川稲門会代表メール(tachikawatomon@gmail.com)へ。

談話サロン

参加者も主役の談話サロン

私たちは、体験談、社会的問題、身近な関心事など、ジャンルを問わず自由にお話しし、意見交換を楽しむことをテーマに活動しています。参加者全員が主役となり、積極的に発言し交流する場を提供しています。

サークルの概要

- 活動内容：体験談や社会的問題、その時々に関心事について話し合い、意見交換を行います。人との出会いを大切に、感性を磨き、視野を広げることを目指しています。
- 開催日：毎月 基本第2火曜日の14時から16時まで
- 場 所：立川市こども未来センター会議室
- 参加費：500円

応募方法 興味のある方は、以下の連絡先までご連絡ください。見学や体験参加も随時受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

連絡先 担当者：小宮山 正明 (S43年理工)
e-mail: mkomichan@gmail.com

稲酔会

稲酔会とは、楽しくお酒を飲みながら地域の垣根を越えて稲門同士で交流を深めることをモットーとしています。稲酔会は、年3回の例会を中心に活動をしています。春の早慶レガッタは、アサヒビールのゲストルームをお借りして、武蔵野稲門会をはじめとする近隣稲門会と合同で応援を行います。夏は、立川近辺で暑気払いを行います。秋は、青梅線沿線の稲門会と合同稲酔会を開催しています。皆様と一杯飲める日を心待ちにしております。

訃報 原 健一さん

1959 (S34) 年 政経

原健一さんは2005年最愛の奥様を亡くされ以後お嬢さんと二人住まいでした。3月24日に自宅で倒れ入退院を繰り返していましたが12月26日に高齢施設ベストライフで逝去されました。88歳でした。原さんは1959年政治経済学を卒業されました。終生の友人だったジャーナリストの筑紫哲也さんも同期でした。卒業後は当時は中堅企業だった富士通に入社し電電公社関係の営業に携わっていたようです。お人柄から定年後も当時の部下とのゴルフや麻雀の関係は途切れる事はなかったようです。彼は良く「部下が・・・」という言葉を使いました、退職して20余年。そんな呼び方が赦される部下がいることは原さんの人柄なのだろうと思います。

原さんは稲門会の活動には熱心でゴルフ会、散策の会、談話サロンにも参加され又無門庵や正楽院での茶会や中村信さんが主宰している猿若句会の常連でも有りました。多摩地区稲門麻雀会では堅実なうち回しだったそうです。性格は細かいことにはこだわらない穏やかな人柄で散策ではいつも最後尾で俳句を詠んでいました。散策の会での歩きながらの何気ない話をもっと深堀しようと談話サロンを提唱したのも原さんでした。猿若句会で印象に残っている句の中で「古樹に咲く白梅の先白い蔵」という句がありました。彼からもらった梅は漬けて古酒となっていますがその梅もこの庭に咲いた梅なのだろうと思います。原さんは実に筆まめでした。毎回の散策の会エッセーもかなり貯まってると思います。かねてから冊子にまとめ記録に残すよう勧めていましたが残念ながらその気はなかったようです。私は立川稲門会の記録として残したいと思い、お嬢さんに原稿を戴きたいとお願いしています。原健一さん！立川稲門会の活動にいつも率先して参加して戴き本当に有りがとうございました。ご冥福をお祈りします。(中村克久記)



会報部会長 伊藤 裕康

大倉 健弘、小林 章子、小林 和雄、志村 順子、原田 宜昭、森 泰親

